

「乳がん診療のcureとcareを目指して ：川崎医科大学 乳腺甲状腺外科の取り組み」

乳腺甲状腺外科 教授 平 成人

認定医・専門医・指導医

日本乳癌学会乳腺専門医・指導医

日本外科学会専門医・指導医



全国がん登録罹患データによると、女性のがん罹患数は乳がんが最多であり、年間約10万人が罹患、生涯罹患リスクは女性の9人に1人と推定されます。一方、乳がんは早期発見と適切な治療により高い確率で治癒が望める疾患でもあります。乳がんの初期治療後は、手術による整容性の問題、薬物療法による副反応、卵巣機能低下・内分泌療法による妊孕性や更年期症状の問題など長期的にわたるcareが必要です。乳がんではcureとcareの両輪の視点を持ち、診療にあたらなければなりません。当科は乳がん診療の拠点施設として、以下のような取り組みを行っています。

【手術療法】

- **センチネルリンパ節生検**：従来は予防的な腋窩リンパ節郭清が行われていましたが、上腕のリンパ浮腫が問題になります。当施設では、術中に転移の可能性の高いリンパ節（センチネルリンパ節）のみを同定し、転移のない場合は郭清を省略します。また転移が数個以内なら、適切な薬物療法・放射線療法により、郭清を省略しても治療成績は下らないことが示されており、可能な限り郭清の省略によりリンパ浮腫のリスク軽減に努めています。
- **乳房再建**：乳房の喪失は、女性の整容性に関わる重大な問題です。

当科では形成外科・美容外科と連携し、積極的に乳房再建に取り組んでいます。特に、微小血管吻合を伴う、自家組織を用いた乳房再建は高難度手術ですが、安定した手術成績を治めています。乳房再建をご希望の患者さまがおられましたら、是非ご相談ください。

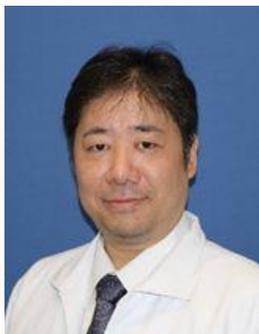
【遺伝医療】

- 乳癌の5%程度は遺伝的な素因で発症するとされ、最多はBRCA1/2の病的バリエーションに起因する遺伝性乳がん卵巣がん症候群です。当科は、日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構の基幹施設に認定されており、遺伝診療センターと連携し遺伝性乳がん専門外来を行っています。遺伝カウンセリング、遺伝子検査を始めとし、病的バリエーション保因者に対するサーベイランス、リスク低減乳房切除が可能です。また産婦人科とも連携し、リスク低減卵巣卵管切除も実施することができます。遺伝的素因が疑われる場合には、是非ご相談ください。



診療のご案内

「高い整容性を目指した乳房再建 ：川崎医科大学形成外科の取り組み」



形成外科・美容外科 教授 山下 修二

認定医・専門医・指導医

形成外科専門医・指導医

再建・マイクロサージャリー分野指導医

乳房再建は、乳がんによって失われたボディイメージを回復し、乳房の喪失による精神的な負担を軽減することで、術後のQOL（生活の質）を向上させる重要な治療法です。当科では、乳腺甲状腺外科と緊密に連携し、多くの乳房再建に取り組んでおります。

乳房再建には、自身の組織を使用する「自家組織再建」と、人工物を使用する「インプラント再建」があります。当科では特に、自家組織再建に力を入れており、マイクロサージャリーの技術を駆使して、血管柄付き脂肪移植による乳房再建を行っています。この方法は、従来の筋肉を含む再建方法と異なり、脂肪組織のみを移植することで、手術の侵襲を最小限に抑えることができます。

また、当科では、乳腺甲状腺外科の手術と同時に行う一次再建と、一定の期間をおいてから行う二次再建の両方に対応しています。乳房再建をご希望の患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にご相談ください。

医師の動き

<退職医師 2024年8月31日付>

心臓血管外科 金岡 祐司 (かなおか ゆうじ) 部長

脳神経外科 村井 智 (むらい さとし) 医長



川崎医科大学附属病院 地域医療連携室
〒701-0192 倉敷市松島577

TEL : 086-464-1567

FAX : 086-464-1166

MAIL : renkei@med.kawasaki-m.ac.jp